

爆音映画祭
BAKUON FILM FESTIVAL

2

MOVIE
MOLAM
BAKUON
ISAN
THAI

แสดงสด ณ กรุงโตเกียว

เทศกาลภาพยนตร์ไทย-อีสาน

ป.ฉลาดน้อย จวีวรรณ ดำเนิน
อัน แดนเขียว

2018.2.21.WED-24SAT

爆音映画祭 2018 特集タイ|イサーン VOL.2
SHIBUYA WWW

LIVE

CHAWIWAN DAMNOEN & PO CHALADNOI
PONGSAPON UPANI

エマーソン北村, MONAURAL MINI PLUG, ザ・バビロン・バンド
SOI48

MOVIE

『タクシードライバー』, 『バー21の天使』, 『田舎の教師』
『モンラック・メーナム・ムーン』, 『花草女王』, 『トーンパーン』, 『ルーク・メー・ムーン』
『映画潜行一千里』, 『サウダーチ』



KUZ 蔵 OKU

SOI48

主催: boid, 空族, Soi48
協力: WWW, Thai Film Archive, オリエンタルブリーズ 助成: 国際交流基金アジアセンター

WWW

ASIAcenter
JAPAN SOCIETY

イサーン特有の楽器、ケーンの音が脳天から足先までを貫いて、気がつくや腰が身体が揺れている。

踊っているというより何かに突き動かされているという感じ。誰にも止められない。

イサーン人でもない東京に住む軟弱な日本人である自分にもこんな力があつたのかと、その時初めて知らされる。

世界を変える力、人生を変える力と言ったらいいか。ケーンの音にはそんな力がある。ケーンを通しそんな力がわれわれの身体に注入されるのだ。

一時期タイでは、ケーンの演奏が禁じられていたという。治世者としては当然の振る舞いだったようにも思う。

禁じた人は、このケーンの力をはっきりと実感していたに違いない。

日本の楽器「笙」にも似た、いくつもの管の集合体としてある楽器ケーンは、まさに自ら管となって、歴史の底からやってくる音たちを通過させ、

今ここへと届けるのである。今ここをコントロールしようとする者たちにとって、そんな厄介なものはないはずだ。

たとえば『ロード・オブ・ザ・リング』の指輪も似た力を、それは持つのかもしれない。

しかしたったひとつしかなくそれゆえ無益な権力闘争を生む指輪と違い、ケーンは誰にも手にすることのできる楽器である。

指輪が権力者のためにあるものだとしたら、ケーンは徹底して民の側にあるのだ。それは常に「民の力」を呼び覚ます。

その音に載せて語られる「モラーム」は、どこにでもいるあなたや私の小さな物語を歌い、その積み重ねが大きくなり生きみ出す。

「Power To The People」と、それは常に訴え続けるのだ。

気がつくやすべてが滑らかにコントロールされつつあるこの日本にも、それらが響く隙間はある。今回が2回目の「爆音映画祭タイ/イサーン」。

隙間はまだ小さいが、ケーンとモラームの響は隙間の大小とは関わりのない強さを持つ。

いつしかその響きが日本中を覆うようになる、そんな日を夢見ての4日間。誰にも夢見る権利はあるのだ。

イサーンから届けられる映画と音楽がきくと、この滑らかな日本を騒がしく沸騰させてくれるに違いない。

Power To The People!

樋口 泰人 (boid 主宰/爆音上映&爆音映画祭プロデューサー)

イサーンとは

タイ東北部の名称。タイ王国の人口は約 6718 万人。イサーンの人口はタイ王国総人口の約三分の一を占める。ちなみにバンコクの人口は約 825 万人。都市圏の人口を合わせると約 1456 万人というから、いかにバンコクが東南アジア屈指の世界都市であるかがわかる。

イサーンはラオスとカンボジアに隣接している。北部はイサーン語と呼ばれるラオス語に近い言葉が使われ、南部はクメール系住民が多い。

食文化も異なりソムタム（パパイヤのサラダ）、ガイヤーン（焼き鳥）、カオニャオ（もち米）などが有名である。

決して豊かとは言えない不安定な土壌での農業従事者が多いため、低所得者が多くバンコクに出稼ぎに行く者が多い。

バンコクではタクシー運転手、土木現場の作業員、飲食店、水商売で労働する者が多く、中央のタイ人の差別対象として見られることも少なくない。

このように都会と地方だけでなく人種問題も混じった格差が存在する。微笑の王国と呼ばれるタイだがこういった裏の面も存在するのだ。

そんなネガティブなイメージがつきまとうイサーンだが、非常に豊かな音楽文化を持っている。

60 年代からイサーン人をターゲットにした映画、音楽が大量に作られていたのだ。

TV、インターネットが普及していない娯楽の少ない時代、映画と音楽が制作されるのは当たり前と思うなかれ。

近隣諸国のラオスや、ミャンマーは自国でレコードを制作する豊かさを持っていなかったのだ。カンボジアはポルポトの影響でポップス産業に空白期間が生まれている。

そんな中イサーンは語り芸モラーム、イサーン語の歌謡曲のレコードやイサーン人用の大衆映画を制作していたというから驚きだ。

何故豊かと言えないイサーン人にこのような文化が根付いているのか？その答えは簡単だった。

タイを代表する音楽プロデューサー、ドイ・インタノンはこう言っている。

「イサーン人は娯楽のための金を惜しまない。たとえ 1 日働いた稼ぎが消えようとも欲しい音楽には金を払う」と。つまり単純に娯楽が好きで人々なのである。

70 年代～90 年代台初頭にかけてレコードを大音量でかける移動式サウンドシステム・ジュークボックスや野外映画上映が農村を回っていた。

特に農村部での映画の野外上映は大好評で、入場料は無料、かわりに興行主から薬を買うという富山の薬売り商法が成り立っていたのだ。

今回紹介する映画は中央の知識階級が映したイサーン、イサーン人を喜ばせるためにイサーン人自ら制作した大衆映画、

イサーン人の境遇を生々しく描いた映画がラインナップされている。様々な角度から描かれたイサーンと素晴らしい音楽を味わってもらいたい。

そこにはアビチャッポン・ウィーラセタクン、空族の映画『バンコクナイト』に繋がる重要なヒントがあるかもしれない。

爆音映画祭 2018 特集タイ | イサーン VOL.2

タイの東北部、イサーン地方の映画と音楽にどっぷりと浸る4日間。

空族新作『バンコクナイツ』やアピチャップン・ウィーラセタクンの作品の舞台ともなり、バンコクを睨みつつ外側の世界とも緩やかにつながって独自の文化を作り上げたイサーンの、その濃厚な空気をそのまま渋谷に再現！VOL2では、前回話題となった音楽映画『花草女王』のモデルであるタイの人間国宝チャウィーワン・ダムヌーンが来日し、モーラムの特別レクチャーを。同じく人間国宝のポー・サラートノイが掛け合い、若手ナンバー1ケーン奏者のポンサポーン・ウパニが支えるモーラム・ライブを開催。monaural mini plug、ザ・バビロン・バンド、エマーソン北村が参加！そしてSoi48セレクトによる日本初公開作や前回上映のベストセレクションのイサーン映画と空族作品の爆音上映を関係者のトークと共に。

กำหนดการกิจกรรม

0221.WED
Soi48 DAY



『タクシードライバー』 หลบขุน โคกโพธิ์ ราษฎร์เด็มขันธ์

プリンス・チャトリ監督は留学先のUCLAでフランス・F・コッポラやロマン・ポランスキーらと共に映画を学んだタイ映画を代表する作家である。王族でもあった彼はそれまでのタイ映画にあまり見られなかった「社会派」の作品を次々に生み出した。本作『タクシードライバー』は、ベトナム戦争時に兵站としてイサーン各地に造られた米軍基地(そこからベトナム、ラオス、カンボジアに爆撃機が飛び立っていった)のGIに妻を奪われ、ひとりバンコクに出稼ぎに出たイサーンの若者が主人公だ。中央タイ映画において初の試みといつよいイサーン語(ラオス語)を喋る主人公が登場したこの映画は公開時にはタイ語の字幕が付けられた。現在でも中央バンコクと地方イサーンでは厳然たる差別が存在する。スラムに響く故郷のケーンの音色の中で、人間の尊厳を奪われたひとりの男が立ち上がる『ハーダー・ゼイ・カム』スロセッソンの『タクシードライバー』と時を同じくして。(相澤虎之助)

1977年/タイ/124分/デジタル 監督・脚本・撮影:チャトリ・チャラム・コーコン
音楽:ピセツ・サンスワン 出演:ジャットポン・ブーアピロム、ピンヨー・バーンヌイ、ウィヤダー・ウマリン 提供:Five Star Production © Five Star Production Co., Ltd.

『バー21の天使』 เทพรัดานาร์ 21

『トーンバーン 娼婦と花』『ナンバーは死んだ』で有名なユッタナー・ムクダーサニット監督のデビュー作。ジャン＝ポール・サルトルの『禁じけぬ娼婦』をベースに捉えた痛烈な体制批判を含んでいながら、ミュージカル・ナンバーを全編に散りばめるなど異色のタイ映画になっている。バンコクのバブロン通りを舞台に夜働く女とチンピラの交流を描きながら善と悪、正義とは何かを描く。スラサワディー賞で主演女優賞を受賞したチャントラー・チャイナムの演技にも注目。(宇都木景一)



1978年/タイ/135分/デジタル 監督:ユッタナー・ムクダーサニット
脚本:バンテワノッ・テクワン 撮影:ソムチャイ・リーラーヌラック 音楽:クリーバン・デーブシリ 出演:チャントラー・チャイナム、スチャオ・ボンヴィライ 提供:Five Star Production © Five Star Production Co., Ltd.



『田舎の教師』 ครูบ้านนอก 上映後、Soi48によるトークあり

『ルーク・メー・ムーン』やイサーンを題材にした映画を手がけているスラーシー・バートム監督のデビュー作であり、1978年にロングランをした大ヒット。イサーンの小学校に派遣された青年教師が、農村社会の階級構造、役人の腐敗に出会う物語で『タクシードライバー』と並ぶタイを代表する社会派映画である。イサーンの厳しい自然環境、食生活、精霊信仰を映し、観る者に田舎の素晴らしいさと過酷な一面を体験させてくれる。お笑いペット・ビン・トーン一座のノッパドン・ドゥアンポンも出演。(宇都木景一)

1978年/タイ/92分/デジタル 監督:スラーシー・バートム
脚本:センヤヌバブ・サンカワニト、トッサポン・ナータカト 撮影:ニワット・シンバソムサック 音楽:ボン・アツサイニグン 出演:ピヤ・トラグーンラード、ワッサナー・シッティウェー、ノッパドン・ドゥアンポン 提供:Boonserm Kietmingmongkol © Boonserm Kietmingmongkol

0222.THU

チャウィーワンDAY



『モンラック・メーナム・ムーン』 มนต์รักแม่น้ำมูล

70年の伝説的音楽映画『モン・ラック・ルークトゥン』のヒットを受け制作された幻のイサーン映画。ウボンラチャターニを流れるムー川を背景にイサーン人の生活を描く。ダオ・パンドン、テッポーン・ベトゥボン、シーブライ・チャイブラなどルークトゥン、モラム歌手が大集合。イサーンのコメディ王ノバドン・ドゥアンポン、電気ピンを発明したトーンサイ・タプタノンが所属するお笑い楽団ベットピントーンも映画に華を添える。イサーン音楽の重要人物であり作詞家でもあるボンサック・チャタルッカーが監督となり、音楽プロデューサーのスリン・パキシリに「イサーン版『モン・ラック・ルークトゥン』を製作してくれ」と依頼。イサーン音楽界が総力をあげて製作した傑作音楽映画。(宇都木景一)

1977年/タイ/114分/デジタル 監督・脚本:ボンサック・チャタルッカー

脚本:ニワット・シンパソムサク 音楽:スリン・パキシリ 出演:ソナバット・メータニー、ナオワラット・ユクタン、ノバドン・ドゥアンポン 提供:Boonserm Kietmingmongkol © Boonserm Kietmingmongko

チャウィーワン・ダムヌーンによるレクチャー&ミニライブ

『花草女王』 ราชนิดดอกหญ้า

モラム楽団をコンテストで優勝させるためにバンコクの青年とイサーン人達が知恵を絞る伝統音楽を進化させる音楽映画。社会派映画と異なりバンコクとイサーンの格差、都会と田舎の文化の違いを面白く軽快に描いている。『モンラック・メーナム・ムーン』で監督をつとめたボンサック・チャタルッカーが音楽を監修し、臨場感あふれる当時のライブの様子、スタジオ風景が映っている。そして伝説のモラム楽団、ランジマン楽団のチャウィーワン・ダムヌーンとトーンカム・ベンディーがコンビで出演。バンコク青年にモラムの基礎を教え込むために様々なモラムの型を披露するシーンはこの映画の見所だろう。製作された86年から現在に至るまでイサーンの野外映画やお祭りで上映され、娯楽を愛するイサーンの心をつかんだ人気作。単純で解りやすいストーリーは心地よさ200%。

1986年/タイ/125分/デジタル 監督:スラシー・パータム

脚本:スバルーク・クワイルーク 音楽:ボンサック・チャタルッカー 出演:アロム・ボン・ノッパ、チャウィーワン・ダムヌーン、トーンカム・ベンディー 提供:SF Cinema City © Suwat Thongrompo



0223.FRI

空族DAY



『トーンパン』 ทอนปาน

1976年制作、イサーン人農夫の生活と苦悩を描いた社会派映画。75年に実際に問題となったルーイ県のダム建設問題を題材に白黒16mmで撮影。主人公のトーンパンは妻と2人の息子がおり、生きるために農業だけでなくムエタイの試合に出場したり、サムロー(人力三輪車)の運転手をしていたりする。ただでさえお金がないにもかかわらずダム建設で人生が一変する。民主化運動が高まり、共産主義者が隠れることとなったイサーンが舞台のために当時タイ政府から上映が禁止になったという幻の問題作。しかし海外では、その心に迫る生々しい映像から高評価を得てアジア・アメリカ・インターナショナル・フィルム・フェスティバルでオスカーを受賞。その後『蝶と花』『メナムの残照』を残しタイ映画の巨匠となったユッタナー・ムクダーサニットの貴重な初期作でもある。(宇都木景一)

監督:スラシー・パータム 脚本:Seanyanuphap Sangkawanich, Todsaporn Nakhon

撮影・照明:Niwat Sinsomsak 音楽:Pong Asivakul 出演:ピヤ・トラクンラート、ワートナー・シッティウエー 提供:Boonserm Kietmingmongkol

『映画 潜行一千里』 上映後、相澤虎之介、向山正洋によるトークあり

映像集団空族が構想10年をかけて制作した映画『バンコクナイツ』の知られざる核心に迫ったメイキング・ドキュメンタリー。タイ・ラオスを縦断した一千里、約4000キロのオールロケ。旅を続けながら映画を撮り、次第に映画そのものが旅となってゆく。回り続けるカメラは必然的に東南アジアの戦争の歴史を浮き彫りにし、そこで生きる人々の抵抗の輝きを映し出す。現地の人々が役者として出演し、さらにはスタッフとして一緒に仲間になって一本の映画を生み出す空族の制作スタイルも垣間見えてくる。監督はヒップホップクルー「stillchimiya」の映像ユニット「スタジオ石」の向山正洋。向山は“スタジオ石”として『バンコクナイツ』の撮影を進める傍ら撮影風景の裏側も記録に収め、100時間を越える映像を基に構成された本作は、空族についてのドキュメンタリーでもある。

2017/日本/122分/デジタル 監督:向山正洋

撮影:スタジオ石(向山正洋、古屋卓磨) 音楽:DJ KENSEI 監音:山崎巖 出演:スベンジャ・ボンコン、富田克也、相澤虎之助、川瀬陽太ほか 製作:山口情報芸術センター[YCAM] 企画・配給・提供:空族 © Yamaguchi Center for Arts

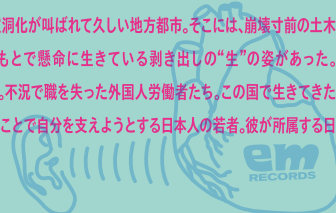


『サウダーヂ』 Saudage

“移民・土方・ヒップホップ”をテーマに地方都市の現状を描いた空族の代表作。山梨県甲府市。不況と空洞化が叫ばれて久しい地方都市。そこには、崩壊寸前の土木建築業などで働く日本人と共に日系ブラジル人、タイ人などの移民労働者たちが過酷な状況のもとで懸命に生きている剥き出しの“生”の姿があった。“saudade”一言では説明できないポルトガル語。郷愁、情景、憧れ。そして、追い求めても叶わぬもの。不況で職を失った外国人労働者たち。この国で生きてきた彼らは再び遠い故国に帰るしかないのか? 一方、先の見えない生活環境から外国人を敵視し、否定することで自分を支えようとする日本人の若者。彼が所属する日本人ヒップホップ・クルーと日系ブラジル人のクルーが競い合うパーティーの夜が始まる。

2011年/日本/167分/35mm 監督:富田克也

脚本:相澤虎之助、富田克也 撮影:高野貴子 録音・音響効果:山崎巖 出演:田我流、鷹野、伊藤仁、ディーチャイ・パイウィナー、デニス・ハマツ、尾崎愛、川瀬陽太 提供:空族



0224.SAT

モーラム・ライブDAY



1980年/タイ/124分/デジタル 監督:スラシー・パータム

脚本:センタイ、バタイ・フーター、ダーラー・ポーン 撮影:ニワット・シンラバソムサック

『ルーク・メー・ムーン』 ลูกรักเมามูน 国内初上映

ウボンラーチャターニー県周辺を流れる、イサーン代表するムーン川で生活する人間について描いた娯楽映画。モンラック・メナム・ムーンのヒットを受け1980年に制作されたミュージカル調の映画で、ノッパドン・ドゥアン・ポーン、ダオ・パンドン、テーブ・ポーン、ベット・ウボン、パン・コクナイツにも出演したアンカナン・クンチャイといったイサーンのスター歌手が勢揃い。雄大な自然と人間の動きを見事にとらえたスラシー・パータムによるカットと鬼オスリン・パークシリによる音楽も見逃せない。空族富田克也監督も太鼓判のイサーンの雰囲気を見事に体感できる傑作です。(宇都木景一)

音楽:スリン・パークシリ 出演:ピヤ・トラグーンラード、ソムチャート・プラチャタイ、ダオ・パンドン 提供:Boonserm Kietmingmongkol © Boonserm Kietmingmongkol

เทศกาลภาพยนตร์ไทย-อีสาน

ป.ฉลาดน้อย หัววรรณ ดำเนิน อัน แดนเขียว

แสดงสด ณ กรุงโตเกียว

モーラムスペシャルライブ

現役最強モーラムペアが爆音映画祭に遂に登場!

LIVE

CHAWIWAN DAMNOEN & PO CHALADNOI PONGSAPON UPANI

エマーソン北村, MONAURAL MINI PLUG, ザ・バビロン・バンド
SOI48

チャウィーワン・ダムヌーン Chawiwon Damnoen

1945年生まれ。ウボンラーチャターニー県出身の女性モーラム歌手。先祖代々ラオスの王室に仕えた名門モーラム一家出身で、60年代から70年代にかけて絶大な人気を誇ったモーラム楽団、ランシマン楽団の初代歌姫を務めた。アンカナン・クンチャイ、バーン・イエン・ラーケンの師匠であり、86年にはモーラム映画『花草女王』に出演&監修。93年には女性モーラムとして初めての人間国宝となった。伝統的なモーラム歌手の第一人者としてタイを代表するモーラム歌手であり、イサーン人歌手からは母と慕われる存在である。現在、廃れつつある彼女の得意とするウボンラーチャターニー地方独特の節回しは必見。

ポー・サラートノイ Po Chaladnoi

1947年生まれ。ウボンラーチャターニー県出身の男性モーラム歌手。トーンカム・ベンディーに師事しアンカナン・クンチャイと共にウボン・パターナ楽団で活躍。その色気のある喉は唯一無二の存在感を放つ。ケーン・ダーラオ亡き今、残された最後の大家男性モーラム歌手として日々ライブ、後進の育成に取り組んでいる。今回チャウィーワンとの男女対での人間国宝モーラム同士の掛け合いは要注目。

ポンサポーン・ウパニ Pongsapon Upani

1991年生まれ。コンケン県出身のケーン奏者。タイ若手ナンパーワンのケーン奏者として活躍。人間国宝であるチャウィーワン・ダムヌーン、アンカナン・クンチャイからの信頼も厚い。ケーンだけでなく、ピンや打楽器、そしてスタジオ・エンジニアもこなすイサーンの音楽界を育む新世代アーティスト。



最後の大家男性モーラム歌手
ポー・サラートノイ



モーラム歌手の第一人者
チャウィーワン・ダムヌーン



タイ若手ナンパーワンのケーン奏者
ポンサポーン・ウパニ

絶賛発売中



旅するタイ・イサーン音楽ディスクガイド
TRIP TO ISAN
Soi48(宇都木景一&高木紳介) (著)



バンコクナイツ
進行一千里
空族(富田克也&相澤虎之助) (著)



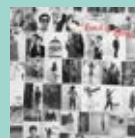
バンコクナイツ
Original Soundtrack
em records



田舎はいいね
エマーソン北村 (feat. mmm)
em records



田舎に帰れ
オザワとバビロン・バンド
em records



Exile of Babylon
Babylon Ban
空族



おてもやん・イサーン
井手雄介と稲船 feat. ポンサポーン・ウパニ
em records

※現存するマスター起因により上映素材の映像・音声の状態が悪くお見苦しい作品もありますことを、予めご了承ください。『東北タイの子』はプログラムの都合上、上映中止となりました。今年中に別の機会での上映を予定しております。

スケジュール

0221.WED

Soi48 DAY

『タクシードライバー』

13:50 OPEN/14:15 START(～16:19終映予定)

『バー21の天使』

16:45 OPEN/17:15 START(～19:30終映予定)

『田舎の教師』+Soi48トーク

*トークは『田舎の教師』のチケットでご覧いただけます。

20:00 OPEN/20:30 START(～22:35終了予定)

0222.THU

チャウィーワンDAY

『モンラック・メーナム・ムーン』

15:35 OPEN/16:00 START(～17:54終映予定)

チャウィーワン・ダムヌーンによるレクチャー&ミニライブ

&『花草女王』上映

18:30 OPEN/19:10 START(～22:40終映予定)

DJ:Soi48/タイご飯:36 chambers of spice

0223.FRI

空蔵DAY

『トーンパン』

14:05 OPEN/14:30 START(～15:33終映予定)

『映画 潜行一千里』+相澤虎之介&向山正洋トーク

*トークは『映画 潜行一千里』のチケットでご覧いただけます。

16:05 OPEN/16:30 START(～19:05終了予定)

『サウダーチ』

19:35 OPEN/20:00 START(～22:47終映予定)

0224.SAT

モーラム・ライヴDAY

『ルーク・メー・ムーン』

15:00 OPEN/15:25 START(～17:29終映予定)

モーラム・ライヴ

チャウィーワン・ダムヌーン、ポー・サラートノイ、ポンサポン・ウバニ、
monaural mini plug, エマーソン北村、ザ・バビロン・バンド

18:00 OPEN/18:30 START(～21:30終了予定)

DJ:Soi48/タイご飯:36 chambers of spice

料金

爆音上映(前売1回券1500円/前売3回券3600円/当日1回券1800円)

チャウィーワン・レクチャー&ミニライブ&『花草女王』上映+タイご飯付(前売3300円/当日3800円)

チャウィーワン・レクチャー&ミニライブ&『花草女王』上映+ご飯なし(前売2600円/当日3100円)

モーラム・ライヴ(前売3500円/当日4000円)

前売券

イープラス(<http://eplus.jp/bakuonhai2018/>),ファミリーマートにて1月27日より発売!

※出演者については、必ず公式サイトをご確認の上お申し込みください。※全ての回ドリンク代別/完全入替制/各整理番号順にご入場いただきます。※前売と当日1回券及び前売3回券は2/22(チャウィーワン・レクチャー&ミニライブ)と2/24(モーラム・ライヴ)には使用できません。※前売3回券は引換券の発券となり、チケットは1枚発券されます。初回ご利用時に窓口で1回券×3枚とお引換の上、ご入場ください。※整理券は各日、初回上映回の間隔1時間前より配布します。ご覧になる上映回毎に整理券を受付にてお受け取りください。※当日満席の場合はお立見、あるいは入場できなくなる場合がございますので、お早目にご来場して受付をお済ませください。※現存するマスター起因により上映素材の映像・音声の状態が悪くなる見逃し作品もありますことを、予めご了承ください。

会場

Shibuya WWW

東京都渋谷区宇田川町13-17ライズビル 渋谷駅ハチ公口から徒歩7分。旧CINEMARISE。
WWW TEL 03-5458-7685 www-shibuya.jp

出演者プロフィール

樋口泰人

1957 年山梨県生まれ。映画批評活動を経て、単行本、CDなどを製作・発売するレーベル「boid」を98年に設立。04年から、東京・吉祥寺バウスシアターにて、音楽用のライヴ音響システムを使用しての爆音上映シリーズを始め、「爆音映画祭」は現在も全国的に展開中。著書に『映画は爆音でさやく』(boid)、『映画とロックンロールにおいてアメリカと合衆国はいかに隔ったか』(青土社)。最近の主な配給作品に『地獄の黙示録公開場地球に落ちて来た男』『PARKS パークス』『DARK STAR/H-R-ギャーの世界など』。

<boid> <http://www.boid-s.com/><爆音映画祭> <http://www.bakuon-bb.net/>

Soi48 (KEIICHI UTSUKI & SHINSUKE TAKAGI)

旅先で出会ったレコード、カセット、CD、VCD、USBなどフォーマットを問わないスタイルで音楽発掘し、再発する2人組DJユニット。空蔵『パンコクナイツ』にDJとして参加、EM Recordsタイ作品の監修、『爆音映画祭 特集タイイサーン』主催。フジロックや海外でのDJツアー、トークショーやラジオなどでタイ音楽や旅の魅力を伝えており、その活動の様子はNHKのTV番組にも取り上げられた。CDジャーナル、boidマガジンにて連載、また新宿歌舞伎町にて『Soi48』パーティーを不定期開催。書籍『TRIP TO ISAN :旅するタイイサーン音楽ディスクガイド』も好評発売中。 <http://soi48.blogspot.jp/>

相澤虎之助

1974年埼玉県生まれ。早稲田大学シネマ研究会を経て空蔵に参加。監督作、『花物語 パビロン』(97)が山形国際ドキュメンタリー映画祭にて上映、『かたがら街』(03)は富田監督作品『雲の上』と共に7ヶ月間にわたって公開。空蔵結成以来、『国道20号線』(07)、『サウダーチ』(11)、『チェンライの娘』(12)、『パンコクナイツ』(17)と、富田監督作品の共同脚本を務めている。自身監督最新作はライフワークである東南アジア三部作の第2弾、『パビロン2-THE OZAWA-』(12)。

<http://www.kuzoku.com/>

向山正洋 (MMM・スタジオオ)

1982年生まれ。日本大学芸術学部卒業。漫画家を経て、2010年より「スタジオオ」として、MV制作、イラスト、デザイン、立体制作など多角的に創作活動を進める。ラップグループ『stillichimiya』のメンバーとして音楽活動もおこなう。脚本、演出、撮影、編集まですべてをこなすMV作品は、おもにweb上で公開。注目を集め、ジャンルを超えたアーティストから制作オファーが殺到している。『映画 潜行一千里』は向山が「スタジオオ」として「パンコクナイツ」の撮影を進め、傍ら、自らカメラを回し空蔵の撮影風景の裏側を記録に収めた監督作品である。 <http://studioisi.com/TOP.html>

エマーソン北村

キーボード奏者として後期のJAGATARA、MUTE BEATに参加。その後フリーのミュージシャンとして忌野清志郎&2・3's、EGO-WRAPPIN'、斉藤和義、シスターブック、キセルなど数多くの個性豊かなバンド・アーティストと共に活動し、'90年代から現在に至る音楽シーンを常に支えてきた。2014年にソロアルバム『遠近(おうち)』に、2016年にエッセイも収録した「ロックンロールのはじまりは」をリリースし、「エマソン」と呼ばれる一人社団ではフジロックから古書店の店頭まで、全国をフットワーク軽く回っている。2月には「パンコクナイツ」トリビュート12インチアナログ盤『田舎はいいEP』をリリース。 <http://www.emersonkitamura.com/>

スリ・ヤムヒ・アンド・ザ・バビロン・バンド

映画『パビロン2-THE OZAWA-』(監督:相澤虎之助/2012年)のサウンドトラック製作のために結成。映画の主題のひとつでもあるベトナム戦争当時の前線で聞かれた60年代のロック・ポップスを研究し、それらへのオマージュを捧げるアルバム『Exile of Babylon』を2012年にリリース。その後スリヤムヒのボーカルを主軸に据えて、スリ・ヤムヒ・アンド・ザ・バビロン・バンドとして、日本語による新しいロックを探索し、アルバム『Suri Yamuhi』を2014年に発表。『パンコクナイツ』にも楽曲を提供している。 <http://suriyamuhi.com/>

MONAURAL MINI PLUG

タイの人気ピン奏者テック・ラムブルーンから学んだ日本唯一のピン・ブラックバンド。電気ピン奏者、真保信徳とパーカッション富樫央を中心に5人で作り出すグループはまさに現地のもの。さらに、ケーン奏者、牛田歩が加入し、現地進行形で発展中。都内の公園、路上、ライブハウスで活動中。 <https://monaural-mini-plug.jimdo.com/>

36 chambers of spice

まだまだ知らない美味いものをつくる、ひろめる。をモットーに本当にエスニック料理好きなお客様に向けてこだわりのエスニック食材の開発を行う食品メーカー。 <https://www.36cos.com/profile-1/>

